

窓の役割とは何だろうか？

生活の中で当たり前前に存在しているため、あまり考えたことはないだろう。光や風、眺望を取り込む装置とでも言えよいか。

建築基準法では、採光や換気、排煙のために窓が必須となっており、中でも採光は窓以外に代用が利かないため、窓のない家に住んだことはないだろう。

しかし、取り込むのは良いものばかりではなく、熱や音、通行人からの視線といった、好ましくないものも取り込んでしまうのも事実だ。

特に、熱や冷気の伝わりやすさは、壁や屋根の5〜10倍もあり、熱に対して大きな弱点になってしまう。だから、窓の多い家は断熱性が悪く、冷暖房費がかかってしまう。

省エネという点からすれば、窓は少ない方が良いことになるが、住環境という大きな視野で見えた場合、正解とはいえない。

ある建築家の本に、「豊かなものはすべて外部からやってくる」とあった。極端だと思うが、それほど間違っていないだろう。

家が雨、風をしのぐという役割を果たすためだけなら、窓をつける必要はない。それでも窓が必要なのは、外からもたらず恩恵が、生活のために無くてはならないものだからではないだろうか。

清々しい朝日や涼しい風が入ってくると、心地良く感じ、遠くの間々や庭の木々を眺めると、解放的で気持ちが良い。

窓は、そうした外部にある自然の恩恵や感情を与えてくれる。それは、数値では表せないが、豊かな生活の大きな要因

窓と暮らし。

zuiun(便り) vol.61

と言える。

そんな重要な役割を果たしている窓だが、自宅の窓を改めてみてほしい。

LDKの掃き出し窓をどのぐらい活用しているか。1年中カーテンで閉じられている人もいるはずだ。

それは、外からの視線があるため開けられない、という理由ではないだろうか。

このように、窓が窓としての機能を果たさないのは、とても残念だ。

私は、設計を始める前に必ず現地に行き、日当たりや風の向き、隣家の窓位置などを観察し、それらを踏まえて、窓の位置を考える。

南向きだからといって、安易に掃き出し窓を付けるのではなく、プライバシーが守れるのであれば配置していく。

玄関を地窓にしたのは靴を履いている視線で草木を見たいから。リビングの窓を高くしたのは、道路からは覗かれずに、眺望を楽しめるように。寝室の窓を突き出し窓にしたのは、ベッドに乗った赤ちゃんが窓から落ちないように。

実際の生活をイメージし、人の動作によって視線の高さも変わってくる。

その動作と連動して、窓の高さや大きさ、種類などを決めることによって、窓はしっかりと機能する「生きた窓」となる。

外部の取り込みたくないものは防ぎつつ、自然の恩恵を生活に届ける。そんな生きた窓に包まれた空間が、快適なことはいままでもない。

たかが窓と安易に考えてはいけない。よく考えられた窓と豊かな生活は直結している。